

筋ジスの障害をもち、手足の自由はききませんが、絵を描くことが生き甲斐で過していました。

一昨年の夏にベッドから滑落。気持ちは沈み、体も以前より思うようにならず、落ち込む毎日。そんなとき、病院のリハビリの先生から『OTジャーナル』を紹介され、また描く意欲をもてました。

退院後、初めて描いた「あじさい」です。

表紙に選んでいただき、病院の先生方、看護師さん、地域の皆さんにあらためて感謝致します。

人との出会いを大切に、これからも生きていきます。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



飯塚 勇「紅のバラ」

私が63歳のとき、脳出血により左半身麻痺になり、身体障害者更生施設に入所し、そのときに技能訓練の中でちぎり絵と水墨画を選択しました。最初は自分のイメージ通りに鉄筆で切ることができず、OTの方に手伝っていただいていた。そのときに学んだことが“失った物を数えず、残った物を活かす”ということ。幸い、利き手の右手が残り、訓練にもリハビリの他、水泳、パソコン、陶芸、脳トレ等、仲間やOTの人と一緒にいき、毎日がポジティブに過ごせました。今でも、他の入所者とOTの人たちと楽しく制作に取り組んだことを思い出します。そして、今の施設でもOTの人たちの協力を得て、頑張って制作しています。